

播磨町ダイジェスト

平成15年もいろいろな出来事がありました。
そこで今年の締めくくりとして、播磨町で話題
となったニュースを振り返ります。



「防災・環境・福祉」がテーマの石ヶ池公園オープン



▲親水性の高い石ヶ池公園

平成12年10月より、整備を進めてきた石ヶ池公園は、播磨西小学校の北側に位置し、水面を含めた総面積は、約1・8ヘクタール。園内のパークセンター内には災害時に備えた防災倉庫が設けられ、池の水面には水質浄化のための水生植物が植えられています。また、誰もが安心して利用できるようにバリアフリーの施設にもなっています。

あなたが一番印象に残っているのはどんな出来事ですか？



保育サポーター制度が始まる

子育て中の親は、ほんの少し手を貸してもらっただけで安心して働き、安心して子育てができる場合があります。この「ほんの少しの援助」を行うのが保育サポーター。

この保育サポーターは、厚生労働省の外郭団体の21世紀職業財団が全国各地で保育サポーター養成講座を実施し、それを修了した人たちです。これまで利用した方も、そうでない方も積極的にご利用ください。

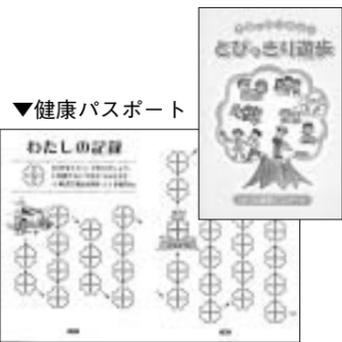
はりま健康プラン策定される



▲みんなで健康づくり

「自らの健康は自らの手でつくる」という環境づくりを目的として、公募により集まったはりま健康プラン検討委員の手によって「はりま健康プラン」はできました。

現在、はりま健康パスポートを活用した「とびつきり遊歩グループ」と、休耕田を使い、世代を超えてみんなで野菜作りを行う「ふれあい自然農園グループ」が活発に活動しています。



▼健康パスポート

スポーツへの参加率を競い合う「チャレンジデー」に参加



▲登録する住民の方

自治体同士で住民のスポーツへの参加率を競い合うイベント「チャレンジデー」が行われ、大阪府四條畷市、京都府向日市と対戦しました。このチャレンジデーは日常生活でスポーツに親しみ、健康への関心を高めるのが目的。この日は朝から、仕事前に会社の近くをグループでウォーキングする人々や、昼休みに会社単位でラジオ体操を、そして日没後、総合体育館などでスポーツを行う様子が見られました。対戦の結果は、参加率が約72%であった播磨町が他の2市に勝利しました。

浅原清隆氏の絵画が寄贈される



▲浅原清隆氏の作品をぜひ！

日本近代美術の歴史に足跡を残された浅原清隆氏の油絵が郷土資料館に寄贈され、展示初め式が行われました。寄贈されたのは「淡路島」「女子アパート」「木のある風景」の3点。郷土出身の画家の作品を、ぜひ、皆さんもご覧になられてはいかがでしょうか。

地震と津波の来襲を想定した防災訓練が実施される



▲日ごろの防災意識を忘れずに

住民ら約1000人が参加する大規模な防災訓練が、播磨西小学校をメイン会場にして実施されました。この日は、東南海・南海地震（マグニチュード7.2）が発生し、町内で震度6弱を記録、2メートルの津波が来襲するという想定。本番さながらの緊張感が漂う訓練に参加者たちは、「日ごろの防災意識が大切だ」と痛感していました。

JR土山駅の自由通路・橋上駅舎が完成



▲JR土山駅南側より

播磨町の玄関口として、また通勤・通学の拠点として利用者の多いJR土山駅。その自由通路と橋上駅舎が12月に完成しました。平成14年に土山駅の仮駅舎を設け、平成15年1月から駅の橋上化および自由通路の建設工事に着手しました。新しい駅と自由通路には、バリアフリーに配慮したエレベーターなどが設置され、誰もが利用しやすい駅となっています。

全天候型多目的広場「はりまシーサイドドーム」がオープン



▲はりまシーサイドドーム

雨の日でもテニスやグラウンド・ゴルフなどができる全天候型多目的広場、「はりまシーサイドドーム」が古宮浜緑地にオープンしました。多目的広場棟は鉄骨造で、延床面積は約2700平方メートル。砂入り人工芝で、テニスコートが4面とれます。最高部の高さは約11メートルで、屋根部分は東京ドームと同じ材質の幕が使われています。

郷土資料館特別展「輝く播磨国」が開催

毎年、郷土資料館で開催されている特別展。今回は「輝く播磨国―風土記の息吹―」というテーマで、奈良時代に書かれた『風土記』が紹介されました。また11月16日には、特別展記念対談「風土記を楽しむ」が中央公民館で開催され、多くの参加者がご来場されました。